

令和6年度「人権教育研究指定校事業」指定校事業報告書

委託先（宮崎県）

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	豊かな人間性をもち、社会に貢献できる生徒の育成 ～実社会と関わる体験型の学習活動を通して～
----------	--

○調査研究のテーマを設定した目的

本校は、「未来を切り拓く強い意志、高い知性、豊かな人間性をもつ人材を育成する」という教育目標を掲げ、中高一貫校の特色を生かした教育活動を展開している。

本校生徒は、入学者選抜検査を受検してきているため、高い知性と高い目標をもって入学し、日々の学習に励んでいる。過去の卒業生の中には、都城泉ヶ丘高等学校の理数科へ進学後、難関大学へ進学し自己実現を果たしている生徒も多い。

このように、自己の進路実現のために各教科の学習に意欲的に取り組む生徒が多い一方、市内外や県外の小学校から入学してきているため、他者との関係づくりや地域社会との関わりには消極的な生徒も少なくない現状がある。

このため、思うように学業成績が伸びずに悩んだり、人間関係がうまく築けずに悩みを抱え込んだりし、自己肯定感をもてずにいる生徒が近年増えてきつつあるように感じている。

そこで、実社会と関わる体験型の学習活動等を通して、豊かな人間性を育み、他者や地域社会と積極的に関わりながら人と良い関係を築き、社会に貢献しようとする生徒を育成したいと考え、本研究テーマを設定した。

○調査研究の概要

本調査研究のポイントは以下の3点である。

ア 体験型の学習活動の工夫と充実を図り、生徒の自己有用感や自己肯定感の育成を図る。

イ 実社会に貢献している社会人と交流する機会の充実を図り、生徒の社会に貢献しようとする態度の育成を図る。

ウ 生徒が主体となって企画・運営する取組の工夫と充実を図り、生徒の望ましい人間関係の醸成を図る。

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校

○これまでの研究指定等の状況

令和5年度まで国による人権教育研究推進事業の指定なし

○学級数

3学級

○児童生徒数

全生徒数：120人（令和7年2月1日現在）

○URL

<https://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc012>

○指定理由

宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校は、中高一貫教育校として、6年間を見通した計画的・継続的な指導体制を確立し、ゆとりある学校生活の中で、生徒一人ひとりの個性や能力を育てる教育が行われている。スクールミッションの一つに、「人権感覚を養い、豊かな心を育む個性あふれる生徒の育成を目指す学校」としており、人権教育を重要な位置付けとしている学校である。

同校は、生徒の発達段階や地域の実情等を踏まえて、様々な関係機関・団体と連携し、交流する活動を教育課程に組み込んでいることから、委託期間だけでなく、委託終了後も教科横断的な学習を積極的に推進していけると考える。

また、同校は、県内の公立学校の人権教育の先導的な役割を果たせる学校であると考えたため、当学校を指定する。

3. 取り組んだ人権課題について

取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題1つに◎をつけること。）※人権教育研究推進事業公募要領（別紙）「2. 事業の内容」を必ず確認すること。

① 子供	○
② 女性	○
③ 高齢者	◎
④ 障害者	○
⑤ 同和問題	
⑥ <u>アイヌの人々</u>	
⑦ 外国人	○
⑧ -1 HIV感染者等	○
⑧ -2 <u>ハンセン病患者等</u>	
⑨ 刑を終えて出所した人	
⑩ 犯罪被害者等	
⑪ インターネットによる人権侵害	○
⑫ 北朝鮮当局による拉致問題等	○
⑬ 性的指向、性自認	
⑭ その他（ ）	

4. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

ア 体験型の学習活動

【仮説①】

他者や地域社会と積極的に関わる様々な体験型の学習活動の工夫・充実を図れば、生徒は地域社会と積極的に関わろうとし、自己有用感や自己肯定感が育まれるであろう。

(主な活動内容)

- ・ 集団宿泊体験学習（人間関係づくり）
 - ・ 福祉教育体験活動
 - ・ 医療体験学習
- | | |
|-------------|-------------------|
| ①福祉講話・車椅子体験 | ②視覚障がい者への理解 |
| ③保育園等訪問事前講座 | ④聴覚障がい者とコミュニケーション |
| ⑤高齢者疑似体験 | ⑥高齢者施設訪問 |
| ⑦保育園・こども園訪問 | ⑧高齢者施設へ花を届ける |

イ 地域人材やICTの活用

【仮説②】

地域の方々を講師として招聘したり、ICTを活用したオンライン講演会を実施したりするなど、実社会に貢献している社会人と交流する機会を充実させれば、生徒は社会に貢献しようとする気持ちがより高まるであろう。

(主な活動内容)

- ・ 情報モラル教室、平和学習、性教育講話（それぞれ外部講師招聘）

ウ 人間関係づくりの取組

【仮説③】

生徒会が主体となって、人間関係づくりやいじめ等について考える取組を充実させれば、生徒は他者と積極的に関わりながら望ましい人間関係を築くことができるであろう。

(主な活動内容)

- ・ 清泉会集会
- ・ 留学生との交流
- ・ いのちの教育週間（いじめ・校則）

○実施方法

- ア 福祉体験活動や医療体験活動、集団宿泊体験学習など、様々な体験型の教育活動を通して、他者や地域社会と積極的に関わることで、自己有用感や自己肯定感が育まれ、地域社会と積極的に関わっていこうとする生徒が育成された。
- イ 平和学習や性教育講話、交通安全・薬物乱用防止教室等において、実社会に貢献している地域の方々を講師として招聘したり、ICTを活用してオンラインで講演会を実施したりすることで、社会に貢献しようとする生徒が育成された。

ウ 生徒会（本校名称：清泉会）が主体となって、「清泉会集会」や「いのちの教育週間」等において、人間関係づくりやいじめ、校則について考える取組を充実させることで、他者と積極的に関わりながら望ましい人間関係を築こうとする生徒が育成された。

エ 教職員を対象とした研修等の充実や先進校視察研修、全生徒・保護者・教職員対象に人権教育講演会等を実施することで、教職員の人権意識の高揚と資質向上が図れた。

オ 生徒アンケート等の質問紙調査や、各種調査による検証を定量的に行い、多面的・多角的に分析することで、生徒の実態を把握でき、指導内容や指導方法の改善が図られた。

カ 「人権教育専用のポータルサイト」を本校ホームページ上に開設し、研究実践の成果等を県内外に発信することで、本校の研究で得られた成果や課題を普及・啓発できた。

○検証・評価・改善・普及

ア 3側面（知識的側面、価値・態度的側面、技能的側面）の変容について

3側面	変容の検証・評価（検証方法等）
知識的側面	人権侵害等に関する現状に関する知識（質問紙調査）
価値・態度的側面	人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意思や態度（観察、質問紙調査）
技能的側面	対立的問題を対話による互いにプラスに解決する技能（観察、質問紙調査）

※以下の【結果】は、2月に「できる」「どちらかといえばできる」と回答した割合

（ア）知識的側面〔左欄：質問項目／右欄：結果〕

憲法や法律がどのように人権を守っているか理解している	89%
差別や偏見の具体例を挙げることができる	92%
世界人権宣言について基本的な内容を知っている	47%
自分の人権だけでなく、他者の人権についても考える重要性を知っている	95%
ジェンダー平等についての基本的な知識を持っている	91%
マイノリティの人々が直面している問題について知っている	34%
インターネット上でのプライバシーが人権に関連することを理解している	94%

(イ) 価値・態度的側面〔左欄：質問項目／右欄：結果〕

人と異なる意見や価値観を受け入れることができる	96%
他人の苦しみや困難に共感することができる	93%
日常生活で公正さや平等を大切にしている	94%
他者を思いやる態度を持つことを心がけている	93%
マイノリティの人々への支援や理解を示すことが必要だと思う	92%
自分の言動が他者の権利にどのように影響するかを考える	89%
平和な社会を作るために自分が貢献できることを探している	77%

(ウ) 技能的側面〔左欄：質問項目／右欄：結果〕

差別や偏見を目にしたとき、適切に対処する方法を知っている	66%
いじめやハラスメントを防ぐための行動を具体的に取ることができる	74%
他者の意見を尊重しながら、自分の意見を適切に伝えることができる	88%
人権についての議論や話し合いに積極的に参加できる	80%
学校や地域での人権活動に積極的に関与することができる	74%
自分の人権や他者の人権が侵害されている場合、適切に助けを求めることができる	83%
周囲の人々と良好な関係を築くために、相手を理解する努力をしている	83%

イ 最も主要な人権課題（⑩インターネットによる人権侵害）についての評価

問い1	どんな理由があっても、いじめは絶対に許されないということを知っていますか？	第1回 6月実施		第2回 12月実施	
		人数	%	人数	%
回答	1 知っており、いじめの加害者、傍観者にならないように意識した行動を心掛けている	77	69.4	92	85.2
	2 知っているが、いじめの加害者、傍観者にならないように日頃から意識している訳ではない	34	30.6	16	14.8
	3 知らなかった	0	0	0	0
問い2	肉体的苦痛(たたいたり蹴ったり)だけでなく、精神的苦痛(暴言、無視、仲間外し等)もいじめに該当することを知っていますか？	第1回 6月実施		第2回 12月実施	
		人数	%	人数	%
回答	1 知っており、日頃から意識した行動を心掛けている	79	71.2	92	85.2
	2 知っているが、日頃から意識している訳ではない	32	28.8	16	14.8
	3 知らなかった	0	0	0	0
問い3	SNS上での暴言や無視、グループ外しなどもいじめになることを知っていますか？	第1回 6月実施		第2回 12月実施	
		人数	%	人数	%
回答	1 知っており、日頃から意識した行動を心掛けている	95	85.6	98	90.7
	2 知っているが、日頃から意識している訳ではない	16	14.4	10	9.3
	3 知らなかった	0	0	0	0
問い4	SNSやウェブ上でも人権感覚をもって行動できていますか？	第1回 6月実施		第2回 12月実施	
		人数	%	人数	%
回答	1 できている	70	63.1	84	77.8
	2 ほぼできている	25	22.5	13	12
	3 あまりできていない	1	0.9	0	0
	4 できていない	0	0	0	0
	5 スマホやPCを所持していない、あるいは普段操作しない	15	13.5	11	10.2
問い5	他者にメッセージを送る前によく考えてから送信するようにしていますか？	第1回 6月実施		第2回 12月実施	
		人数	%	人数	%
回答	1 できている	69	62.2	77	71.3
	2 ほぼできている	27	24.3	20	18.5
	3 あまりできていない	3	2.7	2	1.9
	4 できていない	0	0	0	0
	5 スマホやPCを所持していない、あるいは普段操作しない	12	10.8	9	8.3
問い6	友達と写真を撮る際、また、撮った写真をSNSにあげる際に必ず友達の同意を得ていますか？	第1回 6月実施		第2回 12月実施	
		人数	%	人数	%
回答	1 できている	60	54.1	73	67.6
	2 ほぼできている	8	7.2	12	11.1
	3 あまりできていない	2	1.8	1	0.9
	4 できていない	0	0	0	0
	5 スマホやPCを所持していない、あるいは普段操作しない	41	36.9	22	20.4
問い7	SNS上において、友達の秘密を勝手に他者に伝える(スクリーンショットで送る)などせず、現実社会と同じくらい他者の人権を尊重できていますか？	第1回 6月実施		第2回 12月実施	
		人数	%	人数	%
回答	1 できている	67	60.4	73	67.6
	2 ほぼできている	18	16.2	16	14.8
	3 あまりできていない	0	0	1	0.9
	4 できていない	1	0.9	0	0
	5 スマホやPCを所持していない、あるいは普段操作しない	25	22.5	18	16.7

ウ 全国学力・学習状況調査の質問紙による検証（自己有用感、他者との関わりなど）

質問項目	R 5 3年生	R 6 3年生
自分には、よいところがあると思う	75.0%	74.4%
人が困っているときは、進んで助けている	85.0%	89.7%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	97.5%	92.3%
人の役に立つ人間になりたいと思う	92.5%	97.4%
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う	95.0%	79.5%
友達関係に満足している	87.5%	94.9%
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	87.5%	74.3%

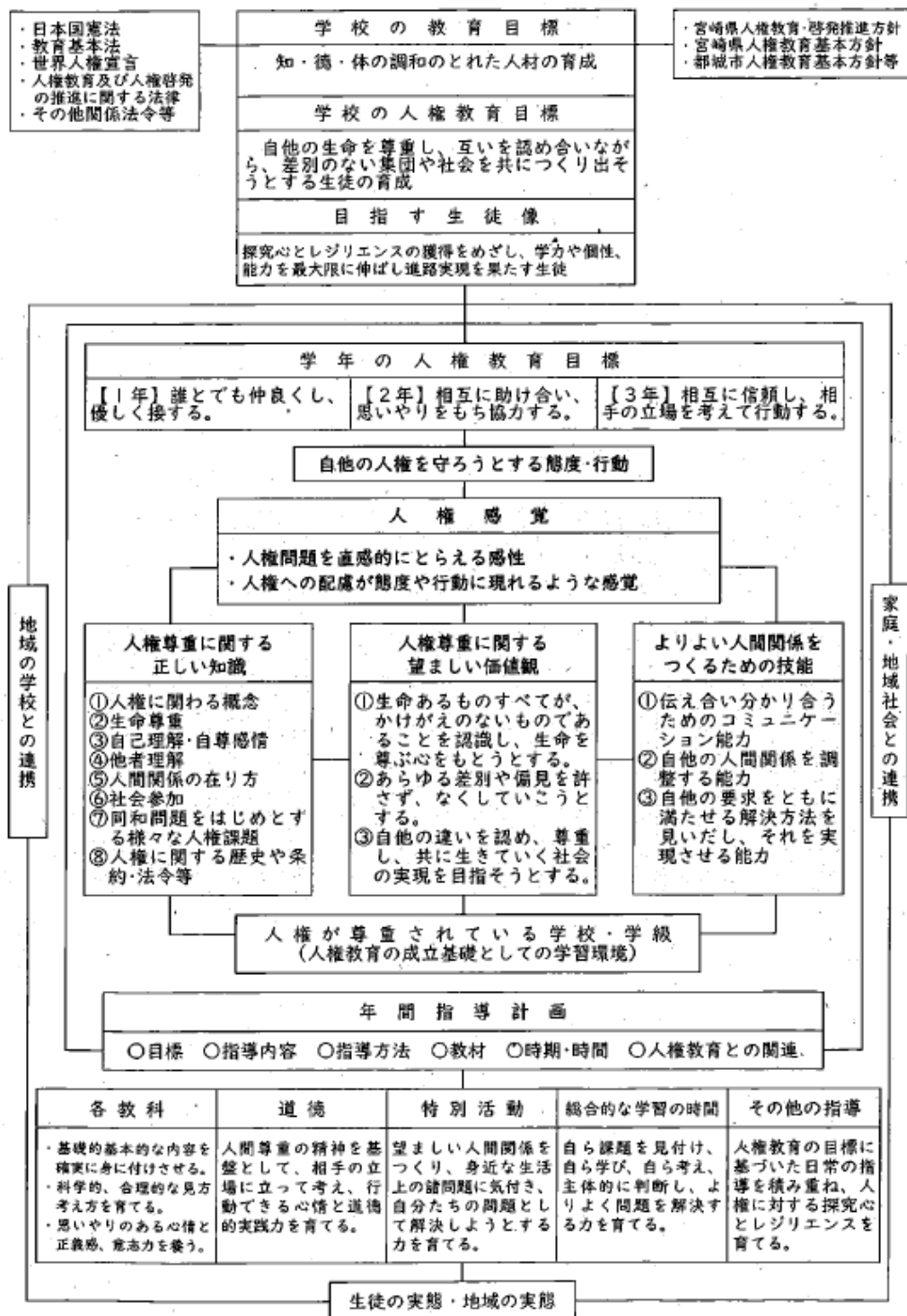
エ 研究の取組の普及と啓発

「人権教育ポータルサイト」を本校ホームページ上に開設し、研究実践の成果等を県内外に発信し、普及と啓発を行った。委託期間終了後も、本校ホームページで実践の様子を継続して発信していくことにしている。

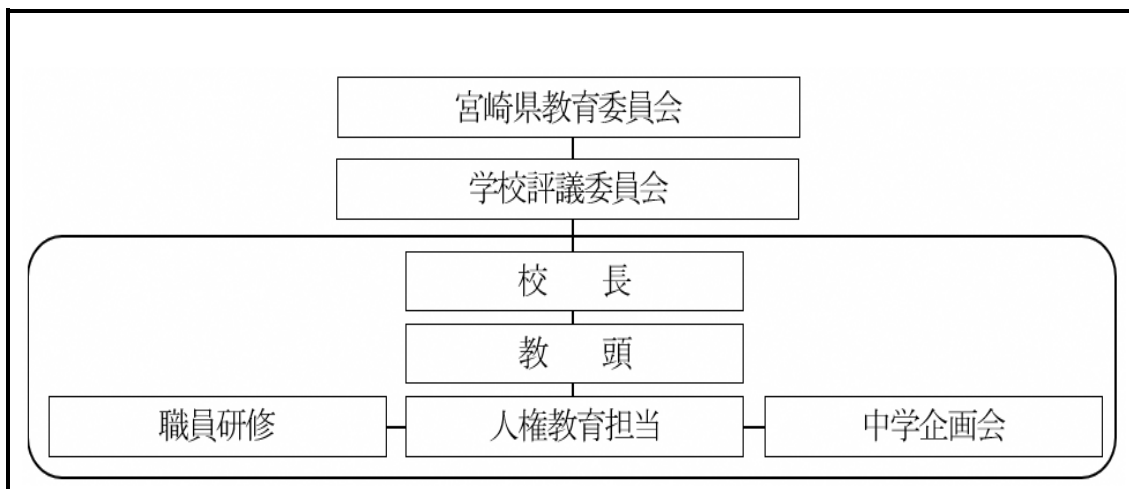
アドレス <https://sites.google.com/g.miyazaki-c.ed.jp/izumi-jinken?usp=sharing>

5. 人権教育にかかる年間計画

(2) 人権教育全体構想図



6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



○関連資料

「人権教育ポータルサイト」を本校ホームページ上に開設し、取組の様子や研究実践の成果等を掲載している。

アドレス <https://sites.google.com/g.miyazaki-c.ed.jp/izumi-jinken?usp=sharing>